

記者発表資料
平成21年9月8日
(担当) 建設局公園課
電話：022-214-8393
青葉区公園課
電話：022-225-7211 内線 6421

青葉通・定禅寺通街路樹（ケヤキ）緊急調査結果報告について

平成21年8月24日、定禅寺通のケヤキ倒木に伴う緊急調査の結果についてお知らせいたします。

1. 調査概要

(1) 調査範囲

青葉通のケヤキ	179本
定禅寺通のケヤキ	165本
合計	344本

(2) 調査方法

- ①目視，木槌による診断（8月26日～8月27日）
- ②診断機器を使用した調査（8月28日～8月29日）

2. 調査結果

(1) 目視，木槌による診断

青葉通の10本（養生痕が見られた2本を追加）
定禅寺通の5本
合計15本について，機器調査による診断を実施する必要があると判断された。

(2) 診断機器を使用した調査

- ①樹木3本（No.120，No.329，No.352）の植替えの必要があると判断された。
 - ②残る12本については養生と継続的な経過観察の必要があると判断された。
- ※調査結果は下記「表 診断機器による調査結果」の通りである

3. 今後の対応

植替えが必要と判断された樹木については，当面，倒木の危険性は低いものの，安全性の観点から撤去することとし，今回定禅寺通で倒れた木も含め植栽に適した時期に植替えを行う。

表 診断機器による調査結果

調査項目 調査木場所		樹木 番号	判断基準				総合評価
			腐朽部または空洞 面積比率 (%)		空洞 長さ(m)	開口角度 (度)	
			50% <	30% <	1.5m <	120度 <	
青葉通	歩道 (南側)	110	—	—	—	—	養生と経過観察が必要である 植替えが必要である
		120	—	○	○	—	
		124	—	—	—	—	
		147	—	—	—	—	
	中央 分離帯	147	—	—	—	—	養生と経過観察が必要である 養生と経過観察が必要である
		156	—	—	○	—	
	歩道 (北側)	226	—	—	—	—	養生と経過観察が必要である
303		—	—	○	—		
計	329	—	—	—	○	養生と経過観察が必要である 植替えが必要である 植替えが必要である 養生と経過観察が必要である	
	352	—	—	○	○		
	369	—	—	—	—		
定禅寺通	歩道 (南側)	10本					
		419	—	—	○	—	養生と経過観察が必要である 養生と経過観察が必要である
	429	—	—	—	—		
	中央分離帯 (南側)	523	—	—	—	—	養生と経過観察が必要である 養生と経過観察が必要である
		536	—	—	—	—	
	中央分離帯 (北側)	なし					
歩道 (北側)	730	—	—	—	—	養生と経過観察が必要である	
計	5本						
合計	15本					植替えが必要である 3本 養生と経過観察が必要である 12本	

※ ここでは材質強度の観点から、腐朽部および空洞は同義としている。

参考 異常木の植替えおよび養生の判定基準

(1) 植替えを行う樹木

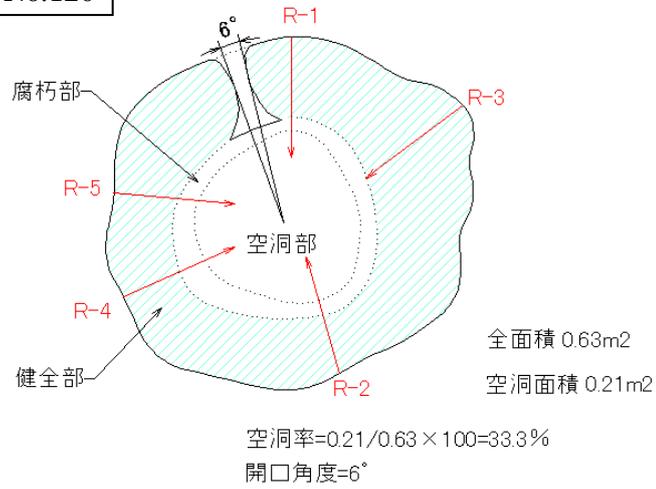
- ①腐朽面積が樹木全体の断面積の50%を超えるもの。
- ②腐朽面積が樹木全体の断面積の30%を超え50%未満で、上下方向空洞の長さが1.5mを超えるもの。
- ③開口部または根際の腐朽が幹周の3分の1(120度)以上あるもの。
- ④樹勢衰退が著しく立ち枯れ状態の場合。

(2) 養生を行う樹木

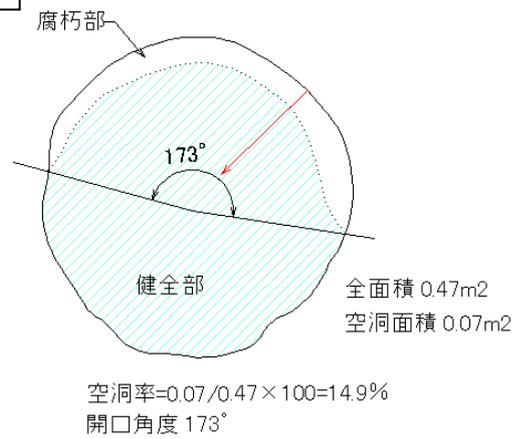
- ①上記以外の異常木について実施する。
(養生＝腐朽部切除・防腐剤塗布及び剪定等)

診断機器による内部推定図

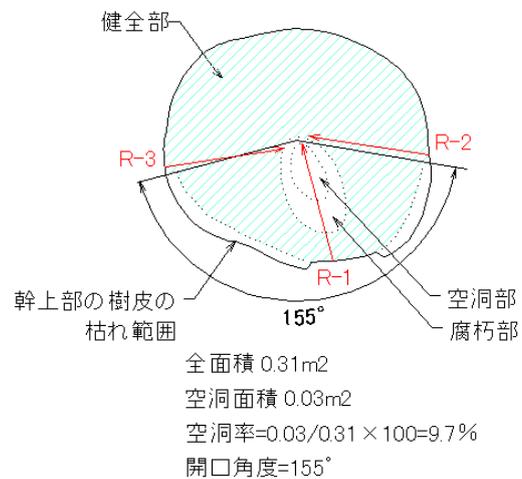
No.120



No.329



No.352

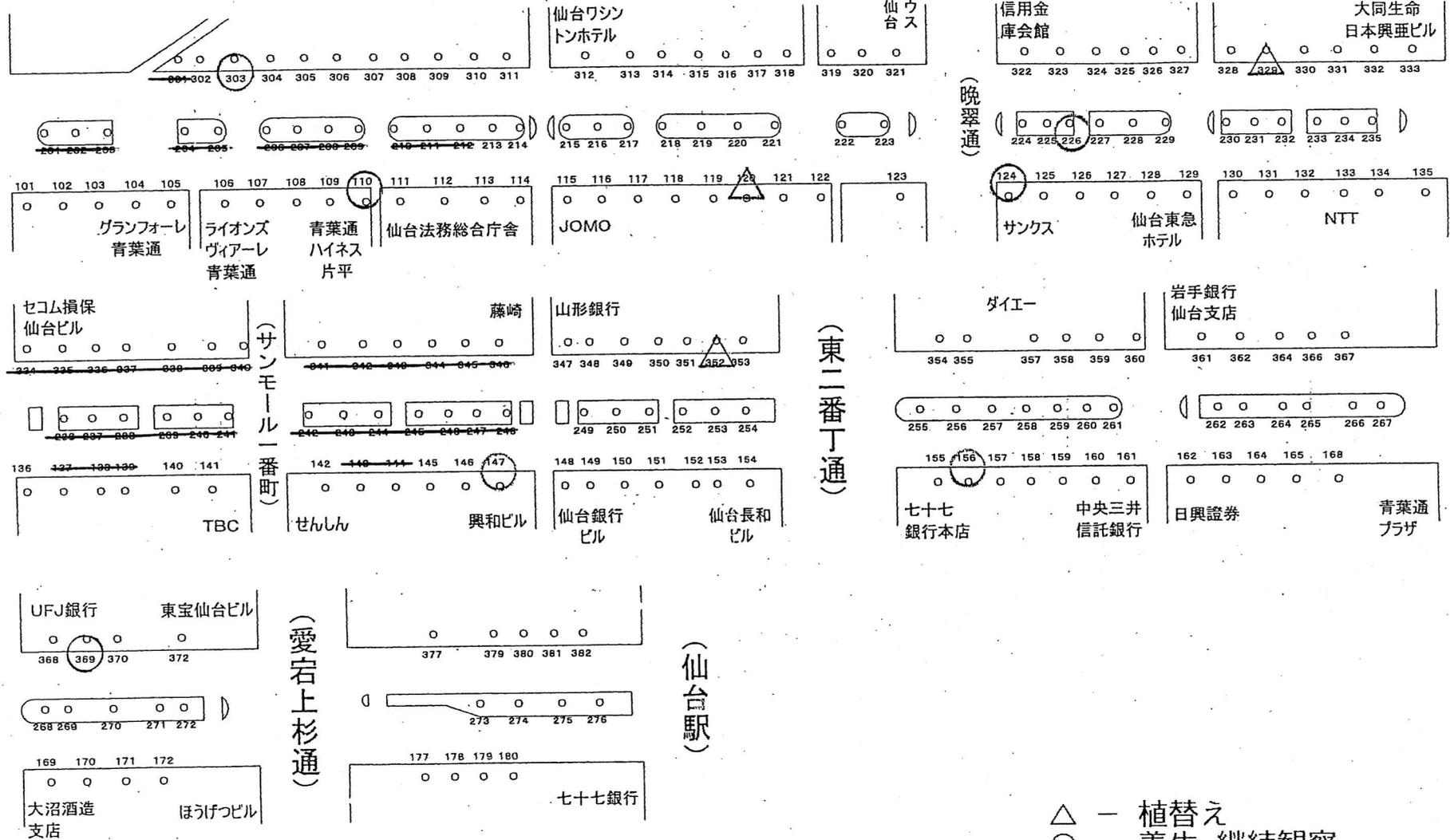


青葉通

ワールド仙台
ビル

(西公園通)

(国分町通)



(晩翠通)

(東二番丁通)

(国分町通)

(愛宕上杉通)

(仙台駅)

△ - 植替え
○ - 養生・継続観察

定禅寺通の倒れたケヤキの調査概要報告

1. ケヤキ樹体形状表

樹木名	管理番号	樹体形状（単位：m）			推定樹齢
		樹高	幹周	枝下高	
ケヤキ	No. 715	15.0	2.05	3.50	63年

2. ケヤキ調査方法

- 1) 根株部及び樹幹をチェーンソーで輪切りにし幹材質腐朽状況・幹材片強度等を調査した。
- 2) 材質腐朽病による被害範囲および腐朽菌体の形状・浸潤状況等を調査した。

3. 倒れた原因の概要

根株・樹幹に進行した材質腐朽病の病症が露出し、その原因菌と思われるベッコウタケ等の繁殖が確認された。

根株部での材質腐朽範囲は、外周厚5cmを残して内部は殆どが腐朽し、幹高105cm程度まで腐朽し、根株材質の強度劣化で被害樹に加わる自重、及び風圧等に耐えきれず倒れたものと考えられる。

倒れたケヤキの腐朽域の断面略図

